

ボスニア・ヘルツェゴビナ

Bosnia and Herzegovina

混乱の3年を乗り越え10年 着実に整備が進む投資受入環境



ヤスナ・サファウザー氏(左) 外務省経済外交部 二等書記官
Ms. Jasna Safhauzer Second Secretary, Division of Economic Diplomacy, Ministry of Foreign Affairs

マイダ・ベチロヴィッチ氏(右) 外国投資促進庁法務課 課長
Ms. Maida Becirovic Head of Legal Department, Foreign Investment Promotion Agency

東西文化の交差点として

1984年に第14回冬季オリンピックが開催された“サラエボ”を首都とする国、それがボスニア・ヘルツェゴビナですが、雄大な自然、美しい街並をご記憶の方も多いのではないのでしょうか。

長らく旧ユーゴスラビア連邦の構成国として歴史を刻んできましたが、もともと西アジアからヨーロッパにかけて人や物が行き交う要所という地理的環境から、独自の、また高度な文化を育ててきました。

そのため1992年からの3年間に紛争を経験したものの、1995年12月に Dayton 和平合意が成立したことを受け、混乱した状況は終結。各国の支援のもと国民の知恵が結集され、政治も安定し社会環境は急速に復興しつつあります。

これら状況から、EU加盟を目指してEUとの安定化・連合協定の締結交渉に向け予備調査を実施、皆さんが84年に目にされた躍動感あふれる姿を再び展望するまでになりつつあります。

いち早く復旧を果たした工業生産基盤

紛争終結後の10年はそれまでの高い

教育行政の恩恵を大きく受けた年月でもありました。依然失業率は高いものの、国民の多くは1つ以上の外国語を修得し、新しい技術の修得などにも大きな役割を担っています。

軽工業分野では、復興が大幅に遅れている繊維製品分野で、EUIに対し輸出制限枠がない好条件を生かすべく、豊富な熟練工による、かつて厚みのあった産業基盤の再構築を目指しています。また国土の40%が森林という特徴を生かし、木材産業の復興にも力を入れつつあります。

その他、鉱業分野では、もともと鉱物資源に恵まれ、それ自体がひとつの大きな産業を形成していましたが、例えばアルミニウムでは、ムスタールで工業部品への加工も実現。自動車業界向けでは80の企業がフォルクスワーゲンなどに部品を供給し、航空機分野へも納入の機会を広げるなど、輸出産業の大きな柱に育ちつつあります。

このように力強い生産活動が戻りつつある背景として、積極的な投資受け入れと、エネルギーセクターの優位性をあげることができるとして、中でも13ある水力発電所はすべて民営化が完了し、周辺国への電力輸出を行なうまでになっています。

早くも10回目の開催を迎えるサラエボ フィルムフェスティバル

今年もサラエボフィルムフェスティバルが開催されます。紛争終結の年に始まったこの催しも、今回で10回目の開催ということで既に定評も確立されつつありますが、私たちの国の創造性に対する自由度の高さや感性、また人的資源の豊かさを発見していただけるイベントでもあります。

今後も日本との関係が人的交流、産業交流などのさまざまな場面でよりいっそう広がってゆくことを期待しています。



サラエボフィルムフェスティバルをPRするポスター

ボスニア・ヘルツェゴビナ

首都 サラエボ
面積 5万1,209平方キロメートル
人口 383万人
宗教 イスラム教、セルビア正教、カトリック
通貨 兌換マルク

政体 複数政党制に基づく共和制
元首 3主要民族代表からなる大統領評議会議長(現在はセルビア系のパラバツ議長)
日本からの主な進出企業
藤村式黒板製作所(現地名: Fuji BB International)